クボタトラクタ

取扱説明書

キャビン付

GL 23DJ・25・26 27・29・32・33

F-6605

ご使用前に必ずお読みください

Kubota

トラクタ✚安全五憲章

1・道路を走行するときは，
ブレーキペダルを連結します。

2・農道を走行するときは，
スピードを落とし路肩に注意します。

3・ほ場へ出入りするときは，
スピードを落としあぜに直角に走行します。

4・トラクタや作業機を点検調整するときは，
必ずエンジンを止め，油圧ロックをします。

5・補助者と共同作業を行なうときは，
合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項を，これ以外にも本文の中で 安全ポイント としてそのつどとり上げております。

更に，安全のポイントを抜粋した安全注意ポスタ・納入品安全説明書を別冊にして添付しておりますので，よくお読みいただいて必ず守ってください。

はじめに

このたびはキャビン付トラクタをお買いあげいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は，GLシリーズのQ仕様(キャビン付トラクタ)について，特に異なる部分の取扱い方法・簡単な点検，及び手入れについてのみ記載しております。その他の説明につきましては別冊(標準仕様)のトラクタの取扱説明書をご覧ください。

本機のすぐれた性能を十分に発揮して，安全に快適な運転をしていただくため，本書と別冊を合せてよくお読みいただき，十分理解してからご使用くださるとともに，日常の保守点検・整備・給油など十分に行なって，末長くご活用ください。

なお，本製品については不断の研究成果を新しい技術として，直ちに製品に取入れておりますので，お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので，あらかじめご了承ください。

また，この取扱説明書は仕様の異なった次の製品を合せて表示していますので，お買いあげの製品の仕様をお確めのうえ，おまちがえのないようお願いいたします。

- GL-23DJ・25・26・27・27DJ・29・32・33 デラックス……「DX仕様」
- GL-23DJ・25・27・27DJ・29・32 ハイデラックス……「Hi-DX仕様」
- GL-23DJ・25・27・27DJ・29・32 スーパデラックス…「小特SDX仕様」
- GL-26・33 スーパデラックス………………「大特SDX仕様」

34070-7589-5

目次

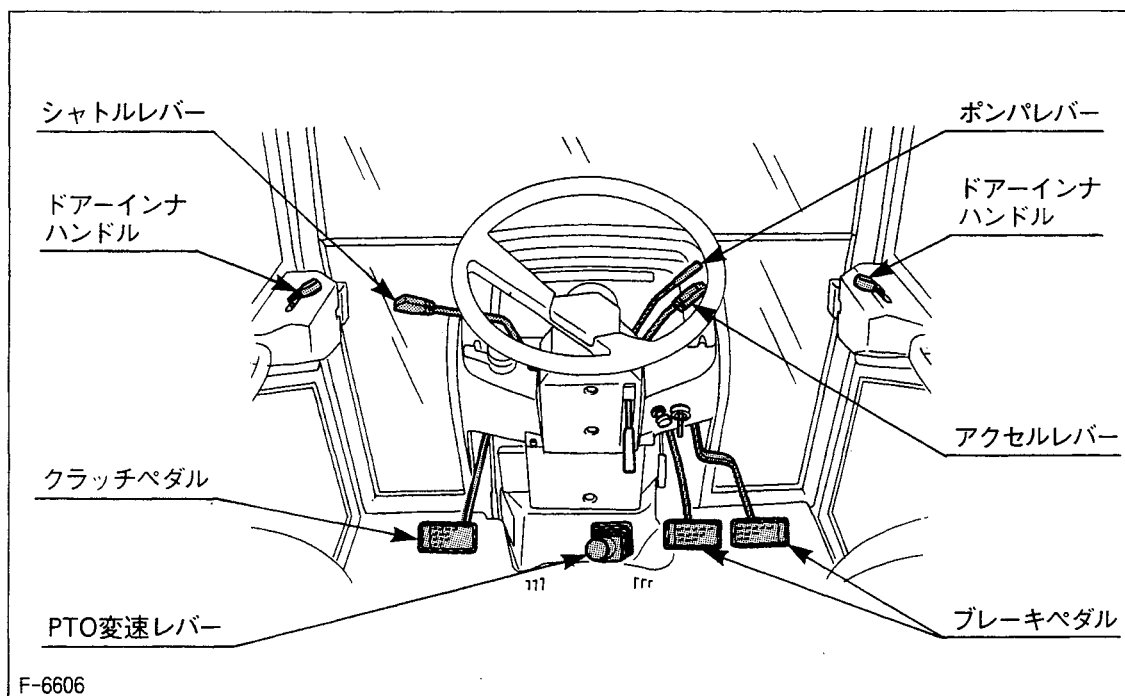
運転に必要な装置の取扱い

運転装置の取扱い

キャビン仕様の変速・油圧レバー及びブレーキ・クラッチペダル関係などの配置は，標準仕様(キャビンなし)と同様です。
操作方法及び注意事項については，そちらを参照してください。

F-6606

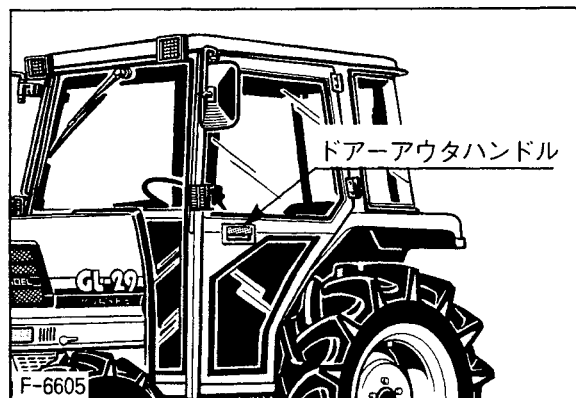
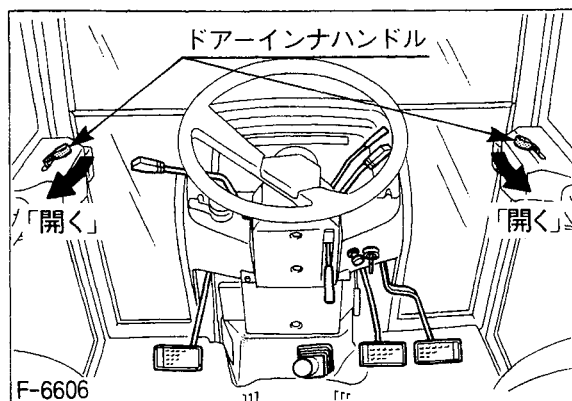
ドアー・窓の開閉とロック

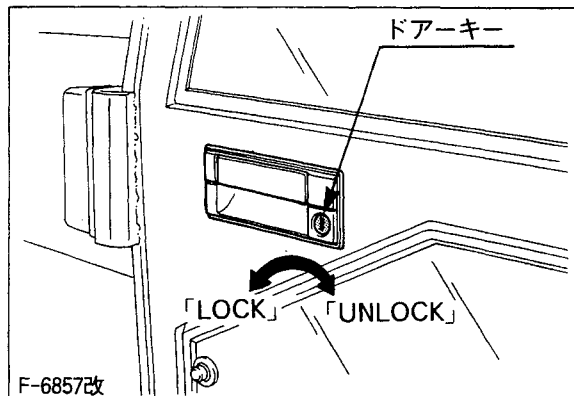
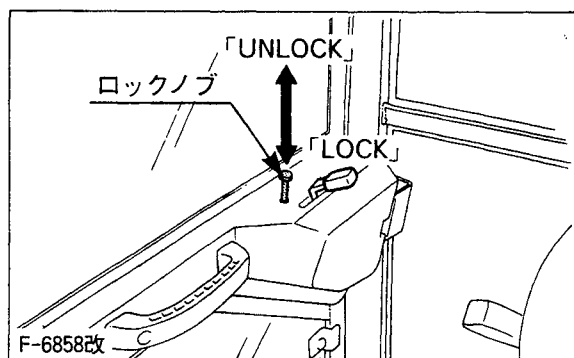
■ドアー

◆ドアーの開閉とロック

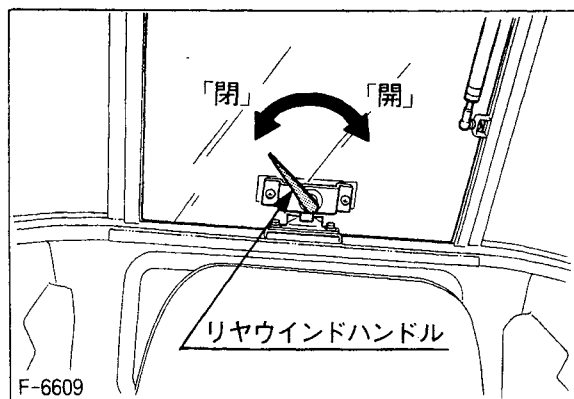
【DX・Hi-DX・小特SDX仕様】
車外から……ドアーアウタハンドルを引き，開けます。

F-6605

車内から……ドアーインナハンドルを引き，開けます。

F-6606

【大特SDX仕様】

車外から……●キー（専用キー）を回すと施錠・解錠されます。
●ドアーアウタハンドルを引き，開けます。

車内から……●ロックノブを押込むと施錠，引くと解錠されます。
●インナハンドルを引き，開けます。

■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で自動的に開きます。

注意

(1)作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときには十分確認して行ってください。

(2)リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

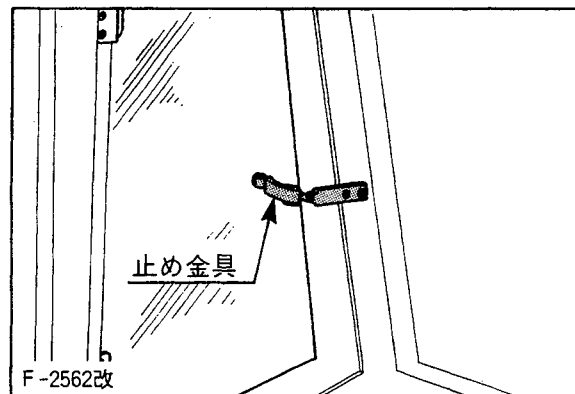
安全ポイント

(1)ガラスの取扱いは，ていねいに行なってください。

(2)作業機を取付けた場合の開閉は，特に作業機上昇時，安全を確認してから行なってください。(強化ガラスを使用していますが，作業機の鋭角部との接触はガラスの性格上破損につながります。)

(3)リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。(開放時頭などを打つ恐れがあります。)

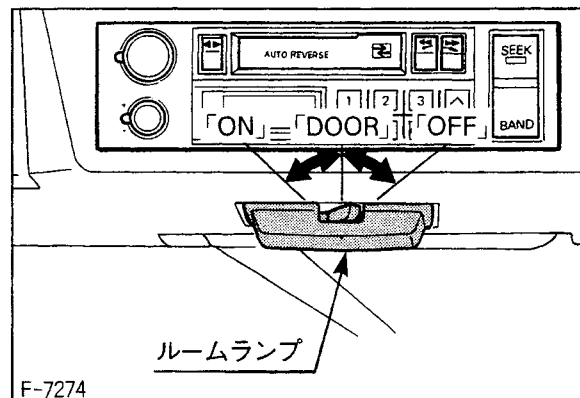
■サイドウインド

止め金具を手前に引き，ガラスと共に外側へ押すと開きます。

■ルームランプ

「OFF」………常時消灯。ドアーを開けてもランプは点灯しません。

「DOOR」……左ドアーを開けるとランプが点灯し，閉めるとランプは消灯します。

「ON」…………ドアーの開閉に関係なく，ランプが点灯します。

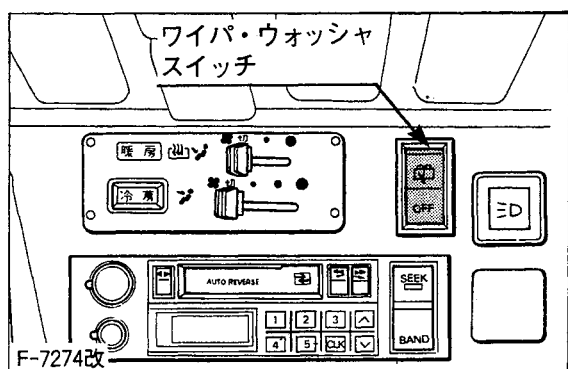
注意

●右ドアーの開閉では，ルームランプの点灯消灯はできません。

フロントワイパ

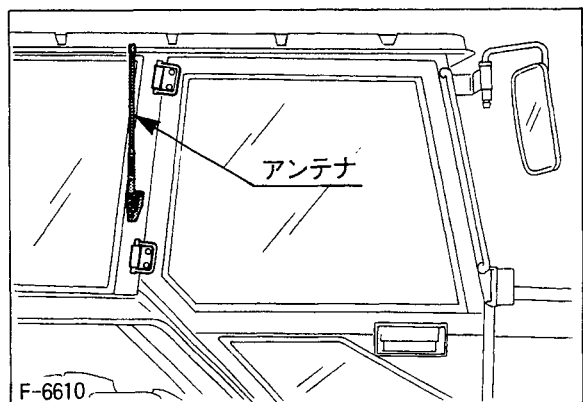
■ワイパ・ウォッシャスイッチ

マークを１段押すとワイパが作動します。さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
また，ワイパが「OFF」の状態でも OFF マークを押すと，押している間ウォッシャ液が噴射します。

注意

- **からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。**

ラジオ【Hi-DX・SDX仕様】

運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

■アンテナ

注意

- **アンテナは角度調整できませんので動かさないでください。**

■AM／FMラジオ付きカセットプレーヤ

操作方法は，巻末に記載しておりますので参照してください。

作業灯【Hi-DX・SDX仕様】

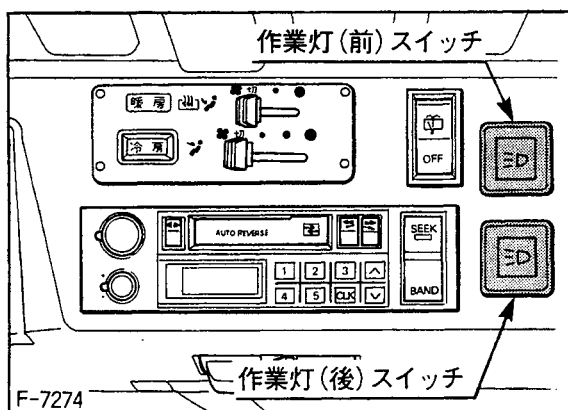
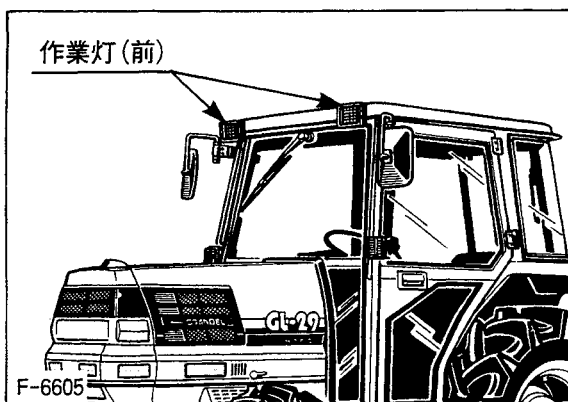
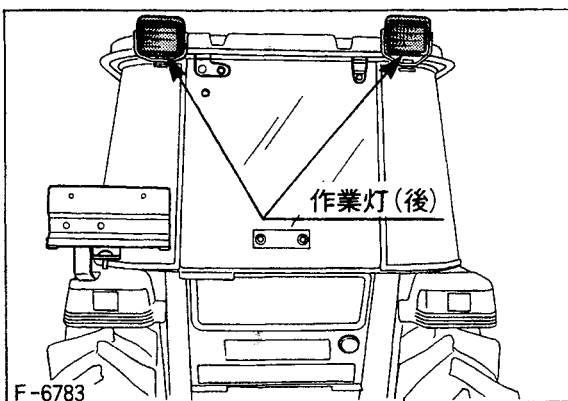
Hi-DX・小特SDX仕様	前２灯
大特SDX仕様	前後4灯

メインスイッチ「ON」位置にして作業灯スイッチを押すと作業灯が点灯します。再度押すと消灯します。

■作業灯スイッチ

■作業灯（前）

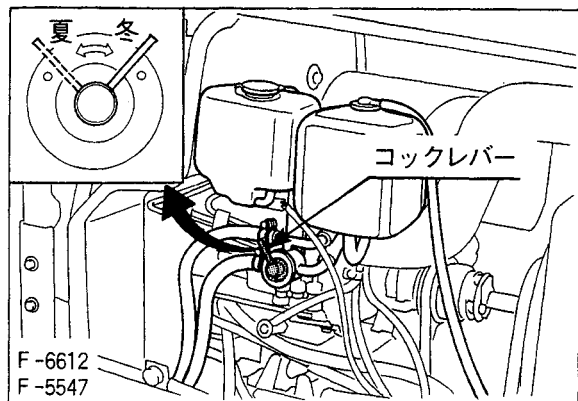
■作業灯（後）

注意

- **バッテリがあがりますので，ヒータ・作業灯・ヘッドランプなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を1200rpm以上にしてください。**

ヒータ【DX・Hi-DX仕様】

■ヒータ用コック

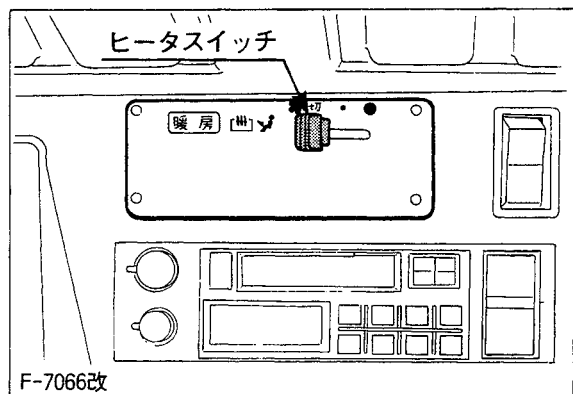
ヒータを使用するときは，コックを全開(時計方向に回す)にします。
夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，コックを閉じておいてください。

F -6612
F -5547

注意

● 水量をチェックするときは，コックを全開にして行なってください。

■ヒータスイッチ

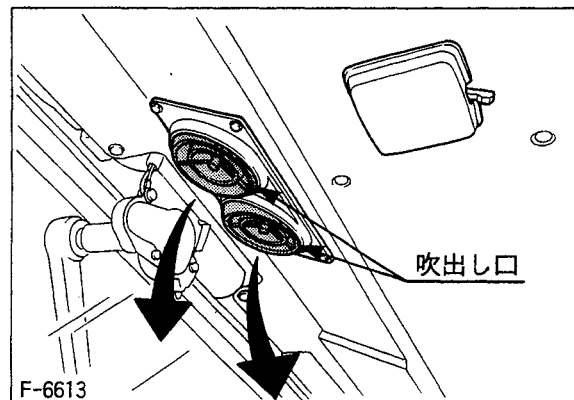
風量を(弱)(強)の２段階に調整できます。
室内の温度によって使い分けてください。

F-7066改

注意

(1)暖機運転をした後ヒータスイッチを「弱」にしてください。
また，室温が上昇中にガラスが曇ればやわらかい布で水気をふきとってください。
(2)ヒータの吹出し口をふさがないようにしてください。故障の原因になります。

■風向調整

温風の方向は,吹出し口により自由に調整できます。
デフロスタ(フロントガラスのくもり止め)として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。

F-6613

■ヒータ使用上の注意

(1)冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
(2)冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
(別冊“冷却水の交換”を参照してください。)
(3)ウォータホースは２シーズンごとに交換を受けてください。
(4)日常点検
次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
(ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)
㋑ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ
㋺ウォータホースジョイント部の水漏れ
㋩ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
㊁本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損
(5)ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

クーラ・ヒータ【小特SDX仕様】

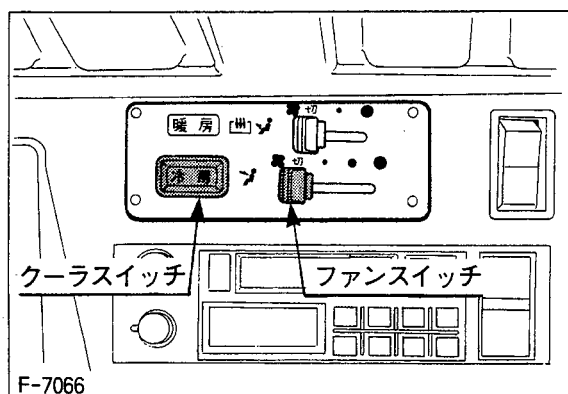
クーラの取扱い

■スイッチ

◆ファンスイッチ

風量を(弱)(中)(強)の3段階に調整できます。
室内の温度によって使い分けてください。

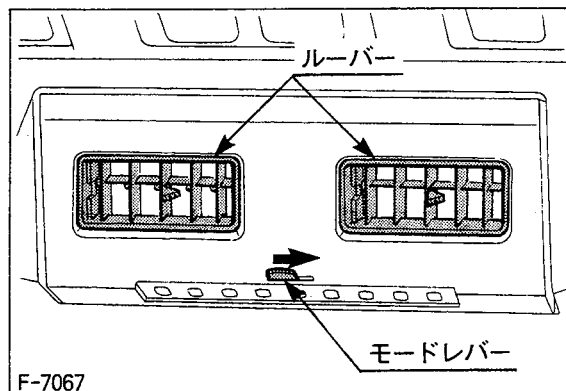
◆クーラスイッチ

クーラを使うときは，このスイッチを押して「ON」にします。(スイッチ内のランプが点灯します)
再度スイッチを押すと「OFF」になります。

■風向調整

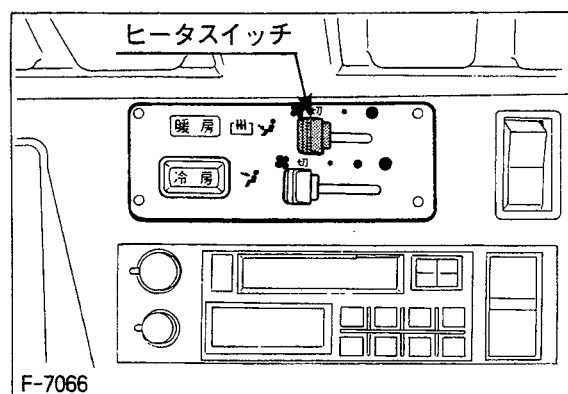
◆モードレバー

モードレバーを矢印方向に開くと，冷風は足元方向にも吹出します。

◆ルーバー

冷風の方向は，ルーバーの向きにより自由に調整できます。

ヒータの取扱い

■ヒータスイッチ

風量を(弱)(強)の2段階に調整できます。
室内の温度によって使い分けてください。

■除湿暖房

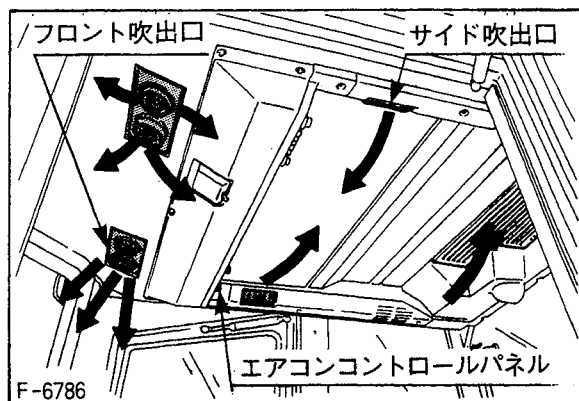
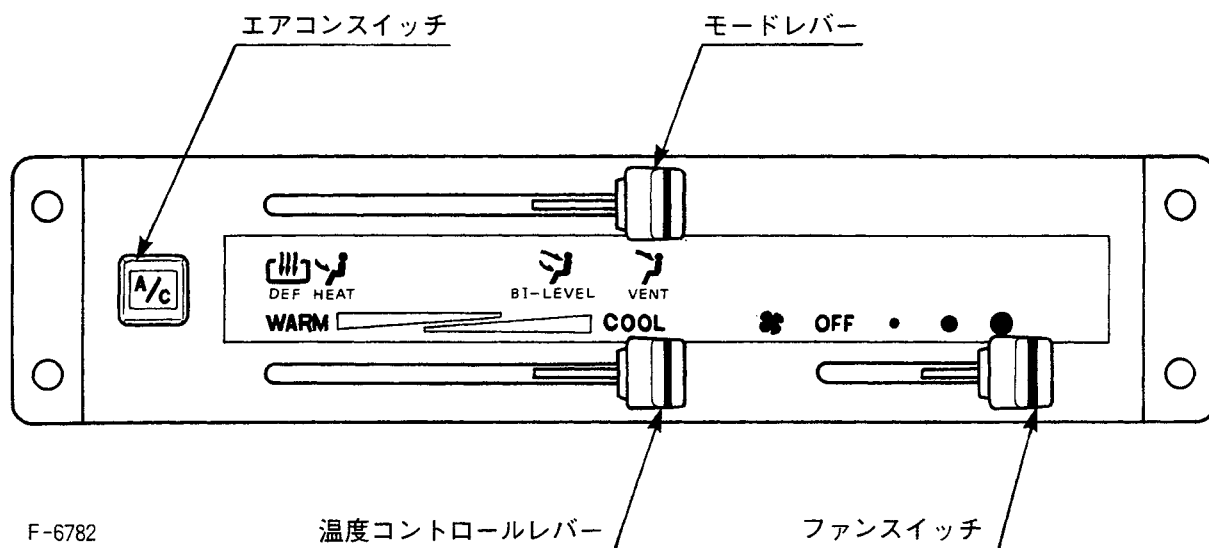
フロントガラスのくもり除去や室内の除湿暖房を行なうときは，クーラとヒータを同時に使用してください。最適のコンディションが得られます。

お願い

- その他ヒータに関する取扱いは，前ページを参照ください。

エアコン【大特SDX仕様】

■空気の流れ

キャビン内の空気の流れは下図のとおりです。4ヵ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。

■コントロールパネルの説明

◆モードレバー

風の吹出口を変えるレバーです。
使う目的に応じて位置を選んでください。

フロント吹出口より風が出ます。
(ウインドガラスのくもりを取りながら，室内を暖房するときの位置です。)

フロント吹出口及びサイド吹出口より風が出ます。(頭寒足熱時使用します。)

サイド吹出口より風が出ます。
(冷房時使用します。)

◆温度コントロールレバー
温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。左に寄せると温風，右に寄せると冷風が出ます。

◆ファンスイッチ
風量が3段階に切換えられます。

◆エアコンスイッチ
エアコンを使うときは，このスイッチを押して「ON」にします。「ON」のとき，インジケータランプが点灯します。

■取扱操作方法

◆冷房
室内を冷房するとき，モードレバーを BI-LEVEL，あるいは VENT，ファンスイッチを「ON」，温度コントロールレバーをCOOL，A/C を「ON」にしてください。寒くなりすぎるときは，ファンのスピードを下げるか温度コントロールレバーを左に寄せてください。

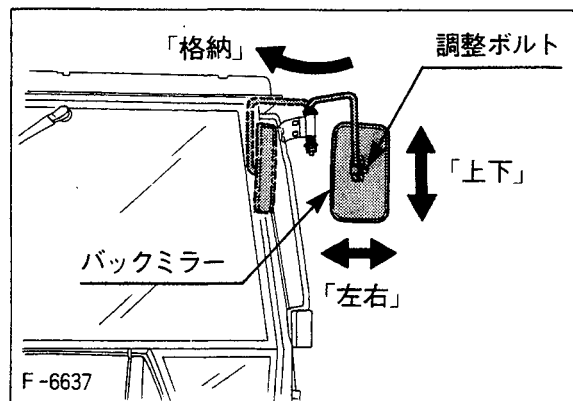
◆暖房(除湿暖房)
室内を暖房するとき，モードレバーを DEF HEAT，ファンスイッチを「ON」，温度コントロールレバーをWARMにセットします。暖かくなりすぎるときはファンのスピードを下げるか，温度コントロールレバーを右に寄せてください。(A/C を「ON」にすると除湿暖房になります。)

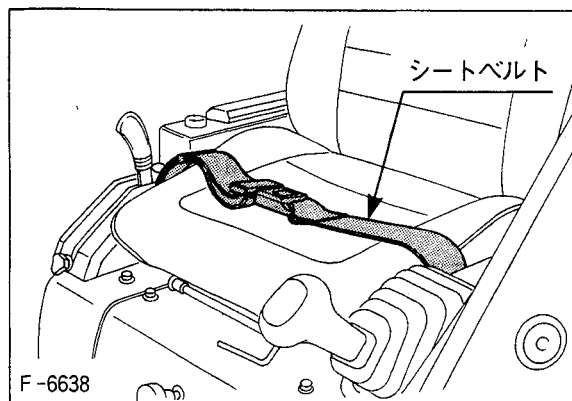
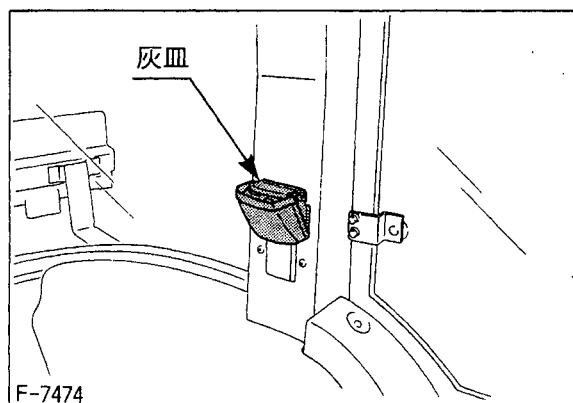
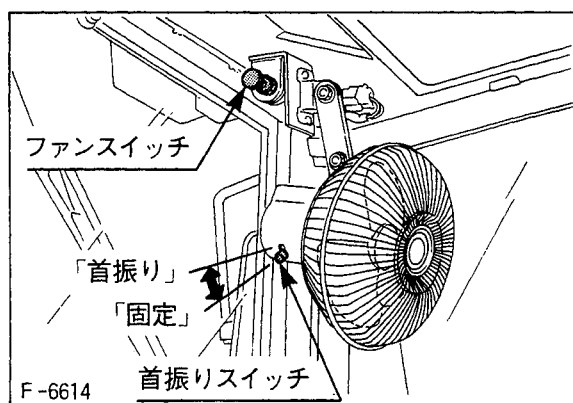
◆デフロスト
フロントガラスのくもり及び凍結除去するときは，モードレバーを DEF HEAT，ファンスイッチを「ON」，温度コントロールレバーをWARMにセットします。フロント吹出口をフロントガラスに向けてください。ガラスのくもりを除去する場合，A/C を「ON」にするとより効果的です。

◆頭寒足熱
顔が涼しく，足元が暖かい快適な状態を得るには，モードレバーを BI-LEVEL，ファンスイッチを「ON」にセットし，エアコンスイッチ A/C を「ON」にし，温度コントロールレバーは中間位置を使用してください。(温度コントロールレバーは，好みにより変えてください。)

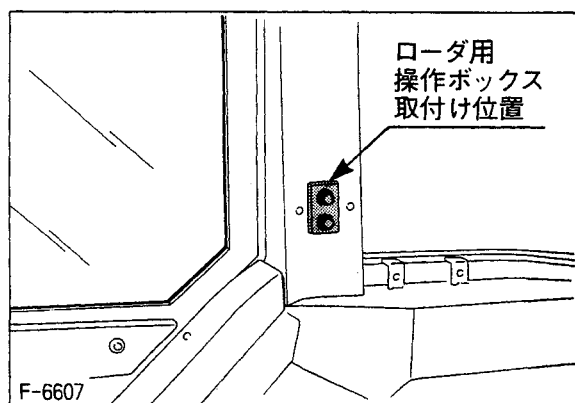
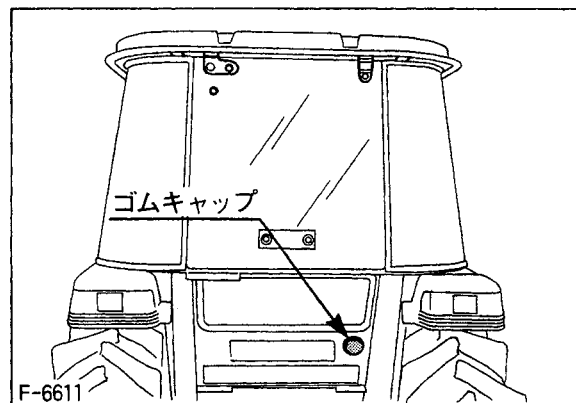
バックミラーの調節・格納

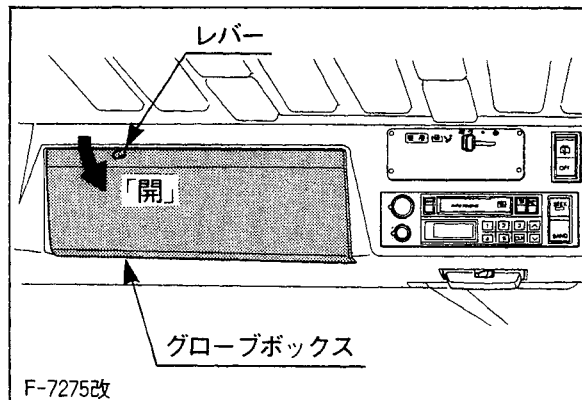
(1)バックミラーは，上下・左右に調節できますので，運転席に座って見やすい位置に調節してください。

(2)バックミラーは，格納できますので狭い場所などで利用してください。

シートベルト

運転時は，シートベルトを着用してください。

灰皿【Hi-DX・SDX仕様】

扇風機【Hi-DX仕様】

「ファンスイッチ」を引くと扇風機が作動します。
また,「首振りスイッチ」により任意の位置で,「固定」又は「自動首振り」の切換えができます。

インプルメントの装着

ゴムキャップに穴を開け，インプルメント用操作コード・油圧ホースなどをキャビン室内に導入してください。

グローブボックス【小特DX・Hi-DX仕様】

レバーを下げると，ボックスが手前に開きます。

注意

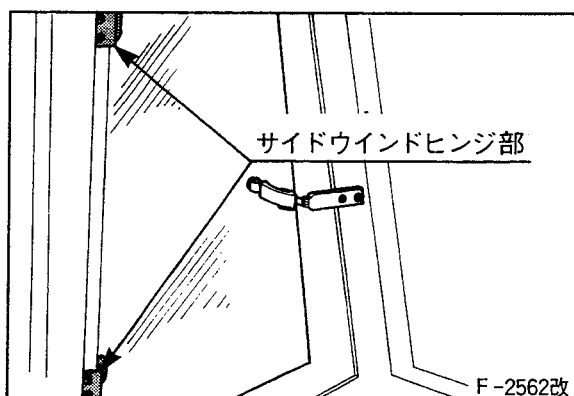
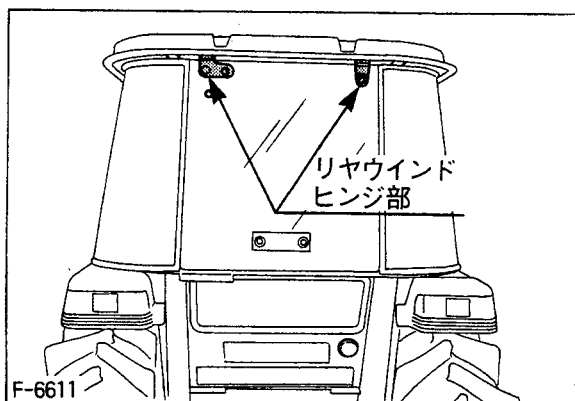
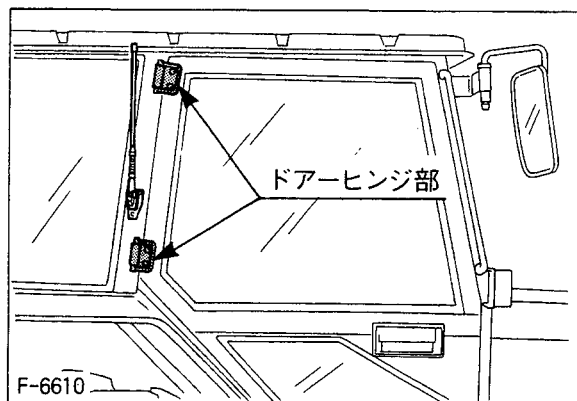
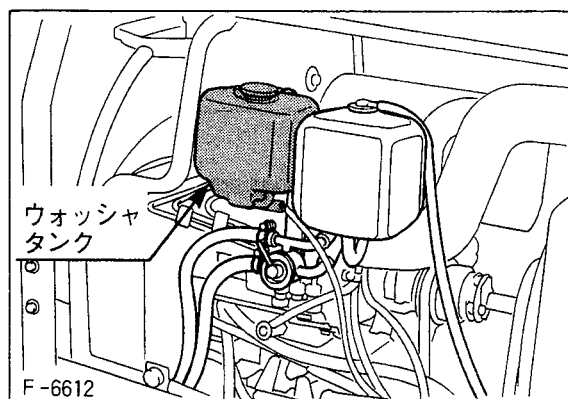
(1)重いものを入れないでください。

(2)開けたままの走行や作業は危険ですのでしないでください。

キャビンの簡単な手入れと処置

各部への注油と給水

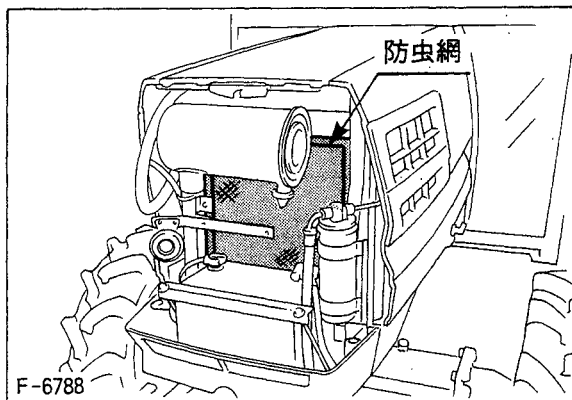
■オイルの注油

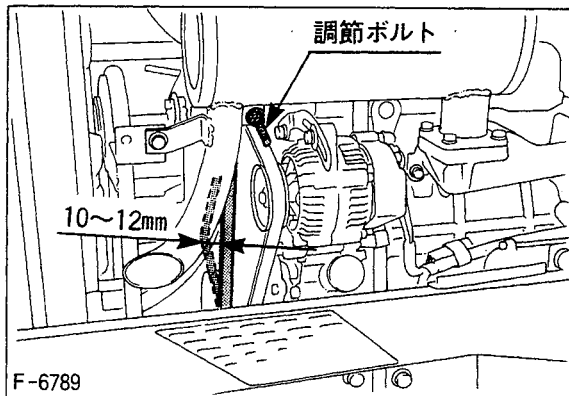
■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。
（タンク容量1.0ℓ）

注意

●凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。

エアコン/クーラ装備品の点検・調整【SDX仕様】

■防虫網の清掃（コンデンサ用）

エアコン/クーラ仕様では，ラジエータと同様にコンデンサの前にも防虫網があります。
防虫網は下側より巻上げ清掃してください。清掃後は，必ずコンデンサに沿って伸ばしておいてください。

■エアコン/クーラベルトの張り

プーリ間のベルトを指で押し点検します。10kgで10～12mmが適正です。

■ヒータ配管，ホースの点検

■エアコン/クーラ配管，ホースの点検

各配管及びホースの損傷を点検してください。

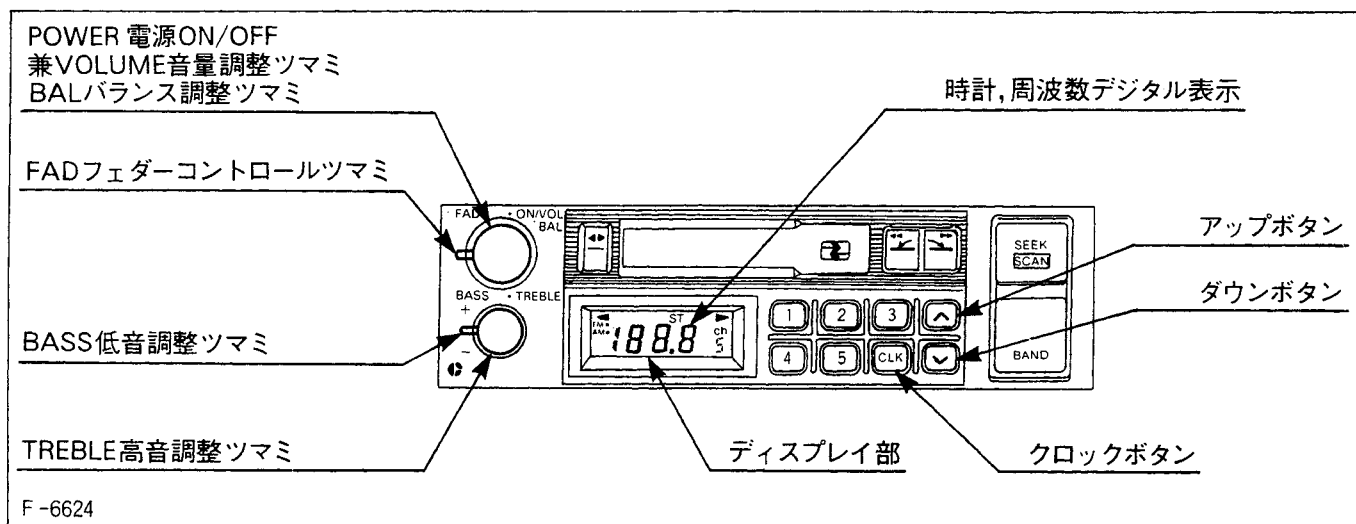
付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

形式	GL-25Q	GL-26Q(SDX)	GL-27Q	GL-29Q	GL-32Q	GL-33Q(SDX)	GL-23QDJ	GL-27QDJ
駆動方式	4輪駆動							
機体寸法 全長(mm)	3050			3180			3050	3180
機体寸法 全幅(mm)	1350		1420		1455		1475	1520
機体寸法 全高(mm)	1990	2225	1990	1965	1990	2230	1990	
機体寸法 軸距(mm)	1645			1750			1645	1750
機体寸法 輪距 前輪(mm)	1080		1130					1170
機体寸法 輪距 後輪(mm)	1050～1345(6段)		1080～1375(6段)	1080～1540(6段)	1110～1575(6段)		1080～1370(5段)	1105～1495(6段)
機体寸法 最低地上高(mm)	345		360					390
重量(kg)	1290	1360	1300	1330	1370	1460	1310	1380
エンジン 名称	クボタD1463	クボタD1503-L		クボタD1503	クボタD1503-H	クボタD1703	クボタD1463-L	クボタD1503-L
エンジン 形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル							
エンジン 総排気量(cc)	1463	1499				1647	1463	1499
エンジン 出力/回転速度(PS/rpm)	25/2600	26/2600	27/2600	29/2700	32/2800	33/2700	23/2500	27/2600
エンジン 使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油							
エンジン 燃料タンク容量(ℓ)	27			35			27	35
エンジン 始動方式	セルモータ式(グロープラグ付)							
エンジン バッテリ	75D26R MF(メンテナンスフリー)							
タイヤ 前輪	7-16 4PR		8-16 4PR				8-16Hi	8-18Hi
タイヤ 後輪	11.2-24 4PR ニューバランスタイヤ			12.4-24 4PR ニューバランスタイヤ	13.6-24 4PR ニューバランスタイヤ		9.5-26 4PR ニューバランスタイヤ	11.2-28 4PR ニューバランスタイヤ
車体 クラッチ方式	乾式単板							
車体 制動装置	一系統左右独立(連結装置付)，湿式ディスクブレーキ(機械式)							
車体 かじ取り方式	ボールスクリュ式(インテグラルパワーステアリング)							
車体 差動方式	4ピニオンかさ歯車式(デフロック付)							
車体 変速方式	コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動/Uシフト	Uシフト	コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動/Uシフト			Uシフト		
変速段数(段)	前進16，後進16(シャトル)							
走行速度(km/h) 前進	0.22～14.80	0.32～23.73	0.22～14.20	0.23～14.86	0.22～14.90	0.32～23.21	0.20～13.70	0.21～14.00
走行速度(km/h) 後進	0.19～13.32	0.30～21.91	0.20～12.80	0.20～13.37	0.20～13.41	0.29～21.18	0.18～11.40	0.19～11.69
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)	2.1			2.2			2.3	2.4
PTO 回転速度/エンジン回転速度(rpm) シングル	568,803 985,1304 /2600		544.770 944.1250 /2600	565,800 980,1298 /2700	586,829 1016,1346 /2800	565,800 980,1298 /2700	523,740 908,1202 /2500	544.770 944.1250 /2600
PTO 回転速度/エンジン回転速度(rpm) シングル逆転	803/2600		770/2600	800/2700	829/2800	800/2700	740/2500	770/2600
PTO 軸寸法(mm)	JIS 35							
作業機昇降装置 制御方式	ポジションコントロール							
作業機昇降装置 装着方式	3点リンク JIS 1形							

AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

スイッチ・ツマミの取扱い

■POWER電源ON/OFF 兼VOLUME音量調整ツマミ

ツマミを時計方向( )に回すと電源ONとなり，イルミ照明が点灯します。さらに回すと音量が増大します。反時計方向( )に回すと音量が減衰し，電源OFFとともにイルミ照明が消えます。

■BAL バランス調整ツマミ

ツマミを引き時計方向( )に回すと右側スピーカの音量が強調され，反時計方向( )に回すと左側スピーカの音量が強調されます。

調整後はツマミを押し，元に戻して使用してください。

■FAD フェダーコントロールツマミ

2スピーカ方式のため，ツマミを時計方向( )に回してご使用ください。

注意

- **フェダーノブを反時計方向に回すと音が出ません。**

■BASS 低音調整ツマミ

ツマミの中間位置( )に対して時計方向( )に回すと低音が強調され，反時計方向( )に回すと低音が減衰されます。

■TREBLE 高音調整ツマミ

ツマミ中間位置(クリック部分)に対して時計方向( )に回すと高音が強調され，反時計方向( )に回すと高音が減衰されます。

■CLKクロックボタン

通電中にクロックボタンを押すと時計表示となります。再度クロックボタンを押すか，あるいはチューナ部の操作をすると消えます。

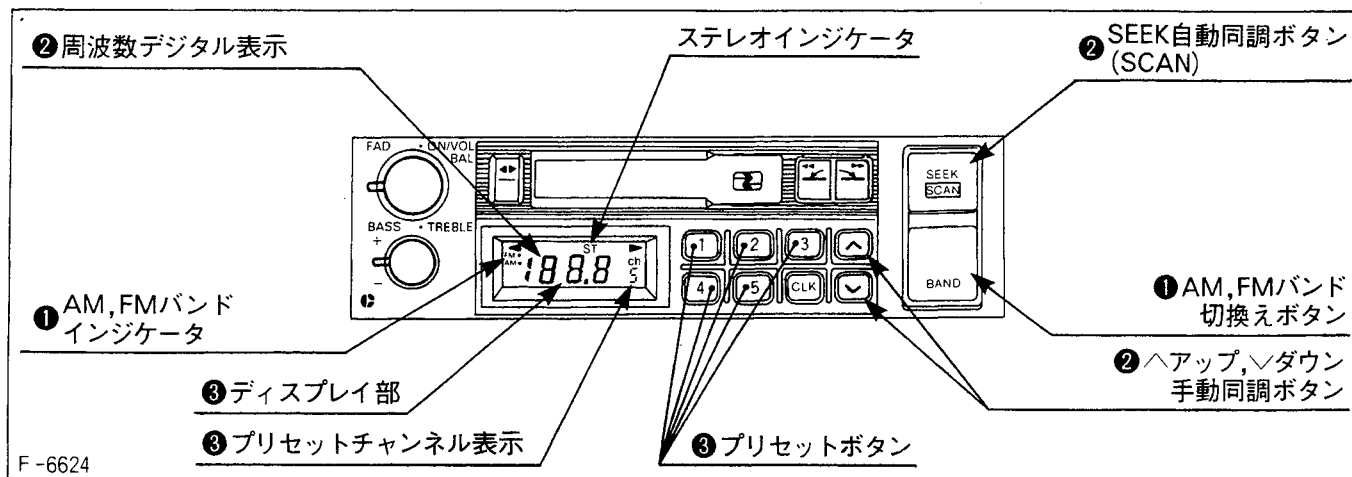
■時計表示の合わせ方

[CLK] ボタンを押しながら [∨] ボタンを押すと，時計表示が変わります。

[CLK] ボタンを押しながら [∧] ボタンを押すと，分表示が変わります。

■異常動作時の対応

装着時，または日常使用時，万一各スイッチを押してもその機能が働かなくなった場合には，[∧] ボタンと [∨] ボタンと [CLK] ボタンを3ヵ所同時に押してください。解除できます。

ラジオを聞くには

■BAND AM，FM バンド切換えボタン

電源スイッチをONにしバンド切換えボタンを押すとAM，FMのバンドが切換えられ，受信バンドはバンドインジケータが表示します。

■ST ステレオインジケータ

FMステレオ放送受信時に“ST”の文字を表示します。

次のいずれかのボタンを押して選局します

■アップ，ダウン手動同調ボタン

[∧] ボタンを押すと，周波数のデジタル表示数が増加し，[∨] ボタンを押すと表示数が少なくなります。

AM受信時は 9 kHzずつ移行し，FM受信時は，0.1MHzづつ移行します。

ボタンを押し続けますと連続して移行します。

■SEEK シーク(SCAN スキャン) 自動同調ボタン

このボタンを軽く押すと(2秒未満)シーク動作を，2秒以上押すとスキャン動作を開始します。

◆シーク動作

SEEKボタンを押すと周波数のデジタル表示数が増加し，自動的に選局，停止し，受信を継続します。シーク動作を繰返しお好みの局をお選びください。

◆スキャン動作

SEEKボタンを2秒以上押すと自動選曲が始まり，最初に止まった局でディスプレイ部が5回点滅した後，自動的にスキャン動作を続けます。各局に5秒づつ停止しますのでお好みの局に停止している間にボタンを再度押してください。選局動作が止まります。

注意

- **選曲中(デジタル表示数が動いているとき)に，SEEKボタンを押すと選曲を始める前の周波数に戻ります。**

■プリセットボタン

あらかじめ，このボタンにご希望の放送局をプリセットメモリしておきますと，ワンタッチで選局することができます。

プリセットメモリの方法

AM放送5局，FM放送5局をプリセットメモリすることができます。

◆プリセット手順

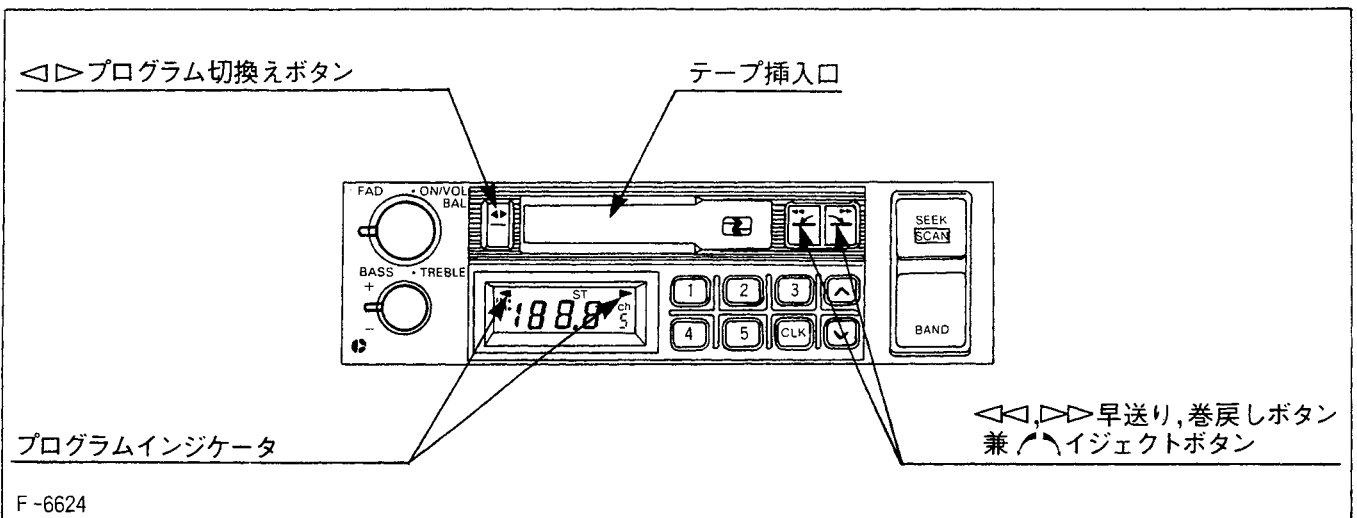
文章及び図中番号順に操作します

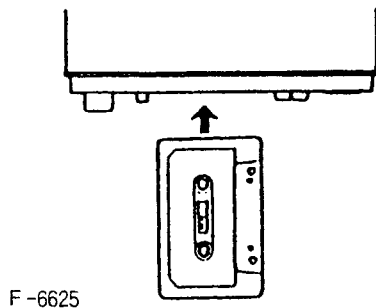
❶カセットテープを取出し，チューナ動作にした後，バンド切換えボタンを押し，AM放送かFM放送かを決めます。

❷同調(手動，自動)ボタンで放送局を選局します。

❸プリセットボタンを2秒以上押し続けると，ディスプレイ部の周波数表示が点滅し，メモリされます。

以上で完了です。

テープを聞くには

■テープ挿入口

電源スイッチをONにしテープの見える面を右側にし，聞きたい面を上側にして挿入します。
挿入されると同時に再生を開始します。

■ ◁ ▷ プログラムインジケータ

テープの走行方向を２つのインジケータが表示します。

■◁◁，▷▷ 早送り，巻戻しボタン

◆早送りの場合

プログラムインジケータが ◁(左方向)点灯時は，◁◁(左側)ボタンを押します。▷(右方向)点灯時は，▷▷(右側)ボタンを押します。
ボタンを押すと，テープは早送りされます。

◆巻戻しの場合

プログラムインジケータが ◁(左方向)点灯時は，▷▷(右側)ボタンを押します。▷(右方向)点灯時は，◁◁(左側)ボタンを押します。
ボタンを押すと，テープは巻戻しされます。
早送り，巻戻しを途中で解除する場合は，隣のボタンを軽く押します。

■ ◁ ▷ プログラム切換えボタン

◆自動プログラム切換え

テープが終端に達すると，自動プログラム切換え装置が働き自動的に次のプログラムに切換わり，連続再生することができます。

◆手動プログラム切換え

プログラム切換えボタンを押すと，プログラムインジケータの点灯方向が切換わり，再生途中でも自由にプログラムが切換えられます。

■ イジェクトボタン

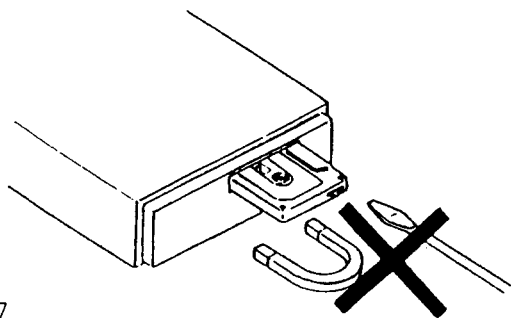
早送り，巻戻しボタンを同時に押してください。カセットテープが飛出します。

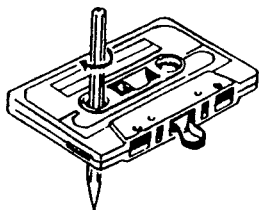
注意

- **カセットテープを聞かないときは，必ずイジェクトボタンを押してテープを取出してください。**

取扱い上の注意

(1)本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気に十分ご注意ください。

(2)ヘッド及びカセットテープに，磁石やドライバなどを絶対に近づけないでください。

F-6627

(3)カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので，テープのゆるみを直してからご使用ください。

F-6626

(4)カセットテープは，水平にし，カセットテープの中央を押し挿入してください。

(5)C-120タイプのカセットテープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり，切れたりしますので，ご使用は避けてください。

(6)ラベルのはがれかかったカセットテープ，またケースが変形しているカセットテープは，メカニズムの故障の原因となりますので，ご使用は避けてください。

(7)ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音質でお聞きいただくため，ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお，クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。

(8)車内の温度に気をつけてください。
極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。また，車を降りられるときには，必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。

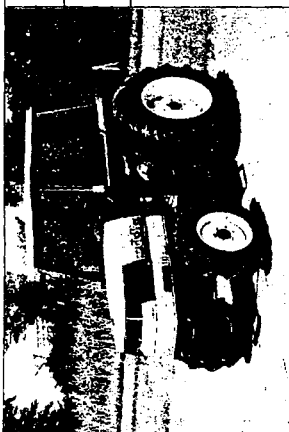
(9)本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また，運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞える程度でお楽しみください。

(10)本機のお手入れは，乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽く拭取ってください。

(11)カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高音，多湿の場所(ダッシュボート上やシートの上)への長時間放置もさけてください。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名： **クボタ GSQ32**

合格番号：	90028
種　類：	安全キャブ
依頼者名：	株式会社　クボタ
住　所：	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名：	依頼者に同じ
住　所：	

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型式名
クボタ GL−32　クボタ GL−29　クボタ GL−27　クボタ GL−25

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型式名		クボタ GL−32	クボタ GL−25
■種類		4輪駆動	4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	1375	1290
■軸距	mm	1750	1645
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	23.5{32}/2800	18.4{25}/2600

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及びブレーキハウジング部，後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓，側窓を装備。

2. 主な装備
暖房装置，電動ワイパー（前），シートベルト（2点式）

3. 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		90.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		133.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		99.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		64.0 cm
■戸口の幅	（上部）	63.0 cm
	（中部）	79.5 cm
	（下部）	34.5 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	127.0 cm
■最低位ステップの高さ		38.0 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	199.5 cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	120.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		26.5 cm

※1. クボタGL−32（タイヤサイズ：前輪8−16 後輪13.6−24）に装着時。
2 トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，N 94850
3. ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4. 主要材料
■主フレーム：STKR41，STK41，SS41，SPHC
■装着ブラケット：SS41
■組立・装着ボルト：S45C

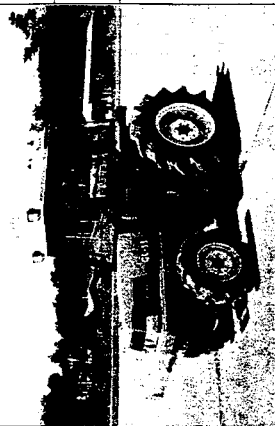
Ⅲ　検査成績

1. 強度試験
1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。
■基準質量：1400 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.25 kJ{230 kgf・m}
　側部負荷　3.06 kJ{312 kgf・m}
■圧壊力：20.59 kN{2100 kgf}
2）試験後のキャブの永久変位
■後部（前方へ）：右側 −0.5 cm　左側 10.0 cm
■前部（後方へ）：右側 2.0 cm　左側 −8.5 cm
■側部（左側方へ）：前側 3.0 cm　後側 15.0 cm
■上部（下方へ）：前部 右側 −1.0 cm　左側 2.0 cm
　後部 右側 0.5 cm　左側 2.0 cm
3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：10.5 cm

2. 騒音 ※
■83dBA〔クボタGL−32〕　82 dBA〔クボタGL−25〕
※ 7.5 km/hに近い速度段における無負荷走行時のキャブ内騒音，運転車の耳もと

Ⅳ　付記

強度試験はコードⅡによって実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタ GSQ33

合格番号：91008
種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名：依頼者に同じ
住　　所：

I　装着可能トラクター

1. 型式名
クボタ GL−33　　クボタ GL−26

2. 主要諸元

		クボタ GL−33	クボタ GL−26
■型式名		クボタ GL−33	クボタ GL−26
■種類		4輪駆動	4輪駆動
■質量(キャブ付き)	kg	1455	1360
■軸距	mm	1750	1645
■機関出力／回転数	kW{PS}／rpm	24.3{33}／2700	19.1{26}／2600

II　構造の概要

1. 構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及びブレーキハウジング部，後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓，側窓を装備。

2. 主な装備
暖冷房装置，電動ワイパー（前），シートベルト（2点式）

3. 主要寸法※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		100.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		143.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		103.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		63.0 cm
■戸口の幅	(上部)	65.0 cm
	(中部)	80.5 cm
	(下部)	33.5 cm
■戸口の高さ	(フートプレートから)	137.0 cm
■最低位ステップの高さ		38.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	(キャブ上端まで)	223.0 cm
■キャブの全幅	(フェンダーを含む)	120.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		29.0 cm

※1. クボタ GL−33（タイヤサイズ：前輪8−16　後輪13.6−24）に装着時。
2. トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，N94850
3. ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4. 主要材料
■主フレーム：STKR 41, STK 41, SS 41, SPHC
■装着ブラケット：SS 41
■組立・装着ボルト：S 45C

III　検査成績

1. 強度試験
1) 水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。
■基準質量：1460 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷 2.35 kJ{240 kgf・m}
側部負荷 3.14 kJ{320 kgf・m}
■圧壊力：21.48 kN{2190 kgf}
2) 試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	右側	3.0 cm	左側	7.5 cm
■前部（後方へ）	右側	1.5 cm	左側	−8.5 cm
■側部（左側方へ）	前側	4.5 cm	後側	19.0 cm
■上部（下方へ）	前部 右側	0.5 cm	左側	0.5 cm
	後部 右側	1.0 cm	左側	3.0 cm

3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：12.5 cm

2. 騒音※
■85 dBA〔クボタ GL−33〕　84 dBA〔クボタ GL−26〕
※7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者耳もと

IV　付記

強度試験はコードIIによって実施した。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

GLシリーズ①キャビン
X. ◉. 11-12. 5. K

株式会社クボタ

本　　　　　社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東　京　本　社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東　北　支　社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中　部　支　社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九　州　支　社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札　幌　支　店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙　台　支　店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東　京　支　店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大　阪　支　店	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
岡　山　支　店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福　岡　支　店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺　製　造　所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑　波　工　場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
堺部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
宇都宮部品センター	宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286)	63-6336
筑波部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	2293
枚方部品センター	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1797
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町字大曲186-37	〒061-12	電(011)	376-2335

株式会社クボタアグリ東北

秋　田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙　台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東　京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新　潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金　沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大　阪事業所	大阪市浪速区敷津東１-２-47	〒556	電(06)	648-2111

株式会社クボタアグリ中四国

米　子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡　山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高　松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福　岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊　本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番　34070—7589—5